

コラムー 六月大祓お供えの「真桑瓜」まぐわうり

平成三十年（二〇一八）十月二十日、皇后（現上皇后）陛下は「お誕生日」の記者会見（文書回答）で、来年から夫君の譲位により「公務を離れたら……赤坂の広い庭のどこかに土地を見つければ、マクワウリを作ってみたい」と述べられ、かつて夫君が「これは……六月の大祓の日に用いられることを教えて下さ」ったと明かされている。

この瓜に関しては、高谷朝子元内掌典の『宮中賢所物語』（修訂『皇室の祭祀と生きて』）によれば、六月三十日朝、「水無月みなづきの御神饌をお清め」して、賢所と皇霊殿に「おすべ（お供え）」する。その供え物は、小麦粉などで作った薄いお餅の「みなづき」と共に野菜の「白瓜・真桑瓜・



図40 岐阜県JAと岐阜農林高校で創った「真桑瓜アイス」

なす」を輪切りにしたもので、「真桑瓜」は皇居内の庭園で毎年栽培されており、そのおさがりを頂くと「素朴なお味が大変美味し」と記されている。

ちなみに、この瓜はメロンの一変種で縄文・弥生時代から作られていた痕跡がある。とくに美濃国真桑村（現本巣市）産が良品として知られ「真桑瓜」と称されるようになった。それを織田信長から正親町天皇に献上した、と伝えられている。

■所功氏 好評既刊書

天皇の歴史と法制を見直す

歴代天皇と宮廷文化の実像を解き明かし、現代の皇室法制の成立史と問題点を概述しながら、当面必要な改善案も提示する。三九六〇円

藤原書店